8th CIRP Conference on Surface Integrity

慶應義塾大学　理工学部　機械工学科
教授　闇　紀旺
（2024 年度 第 1 回国際会議等準備及び開催助成 AF-2024049-W2）

キーワード：加工面，表面性状，表面計測

１．開催日時

2026 年 5 月 19 日（火）～5 月 22 日（金）

２．開催場所

ワークピア横浜（神奈川県横浜市中区山下超 24-1）

３．国際会議報告

3・1　国際会議の概要

開催した国際会議 8th CIRP Conference on Surface Integrity (CSI2026)は, 加工による工作物表面への影響を明らかにし, その制御や品質管理を目指した幅広い関連研究について, 最新の研究発表を通じて国際的に情報共有および交流することを目的としている.

本国際会議は今回で 8 回目であるが，これまで 7 回はすべて海外で実施されていた. このような国内の研究者および技術者にとって有益な会議を日本へ誘致するために, 国内の研究者で実行委員会を組織し今回の会議実施へと至った．国内外から多くの研究者および技術者が参加し, 最終的な参加者は 172 名であった.



図 1　会議初日の集合写真

所期の目的を達成するため, 後述の内容を会議プログラムとして実施して, 参加者にとって有益な会議とするよう運営を行った.

3・2　キーノート講演

本国際会議では，キーノートスピーカとして，下記の 6 名の国内外の研究者および技術者を招聘し, 最先端の技術や業界動向について参加者へ講演を実施した.

(1) Prof. Dragos Axinte, University of Nottingham
(2) Mr. Nobuaki Osawa, OSG Corporation
(3) Prof. Brigid Mullany, University of North Carolina Charlotte
(4) Prof. Volker Schulze, Karlsruhe Institute of Technology
(5) Dr. Naruhiro Irino, DMG MORI CO., LTD
(6) Prof. Albert Shih, University of Michigan

キーノートスピーカによる講演を. 各日の午前に 2 件ずつ講演を行った. 学術界から 4 件および産業界から 2 件, また国外から 4 件および国内から 2 件とこちらもバランスの取れた構成となった.

講演内容についても, 表面の微細品質, 工作機械の情報化, 切削工具の高度化, アディティブマニュファクチャリングなど広範囲におよび, 表面品位に関する多角的な視点に影響することができた.



図 2　Prof. Dragos Axinte によるキーノート講演

3・3　一般講演

国際会議のメインパートである一般講演は，最終的に 113 件の発表があった．国別の発表件数は，ドイツが 28 件で最も多く，次いで中国 19 件，日本 18 件，インド 11 件，イギリス 7 件と続き，計 17 か国より講演があった. 日本で開催する国際会議では, その立地から日本国内からの発表が半分以上を占める場合もあるが, 本会議では国際的なネットワークを生かしての周知や勧誘などを積極的に行ったことで発表全体の 84%が国外からの講演となり, 国際色豊かな会議となった.



図 3　一般講演の様子

ただし，開催前の国際情勢の急激な悪化により，一部の講演者の来日ができなくなる事態が複数件生じた. したが

って，そのような講演予定者には会議までにプレゼンテーションの動画を製作し送付してもらうことで，発表プログラムの当該時間に講演室で再生し，質疑については個別にメール等で問い合わせる形式とした．

3・4　パネリストによるラウンドテーブルトーク

初日朝の実行委員長によるオープニングアドレスに続いて，有識者 6 名によるラウンドテーブルトークを実施した．30 分という限られた時間ではあったものの，著名な各研究者によって独自の視点からの見解や今後の動向予測などがフランクな雰囲気の中で語られ，聴講者にとって非常に有益な情報を提供することができた．



図 4　パネリストによるラウンドテーブルトーク

3･5　レセプションおよびバンケットによる参加者交流

国際会議の前日の夜には同じ会場にて，ウェルカムレセプションを実施した．翌日からの会議に向けて各自が久しぶりに再会する旧交を温める機会，また新たな知り合いを増やす場として設定し，和やかな雰囲気のもと多くの参加があった．海外からの参加者にも配慮し，和食，洋食，中華などを用意するとともにベジタリアン向けの料理のコーナを配置するなどした．



図 5　バンケットディナー

また会議の 2 日目の夜には，会場に隣接するホテルにて，参加者向けのバンケットを実施した．着席スタイルの落ち着いた雰囲気のもと，各テーブルには各国からの参加者が混在して座り，ともに食事を取りながら専門的な会話から砕けた会話まで，思い思いに交流することでネットワークを広げていた．またバンケット終盤に，次回の当国際会議を 2028 年にイギリス・バースで開催予定であることが告知された．

3・6　若手研究者同士の交流会の企画 (Young Researcher Night)

次代を担う若手研究者間の交流を促進するため，初日の夜に会場近くのレストランで Young Researcher Night を開催した．会議から補助を出すことで参加自身の負担を低額に抑えることを行い．12 か国から合計 55 名の若手研究者の参加があった．交流会の前半では，それぞれ 1 分以下で自己紹介を行い，後半は各自それぞれ交流し，若手参加者間のネットワークづくりの一助となった．翌日以降の会場では，その際に知り合った参加者同士で意見交換や談笑する様子が見られた．



図 6　Young Researcher Night

3・7　会議総括

5 月中旬の開催時期ということもあり，気候的に過ごしやすい季節の中，海外含め多くの参加者が集まり研究内容について意見交換する場を提供できたことは非常に有意義であった．横浜という歴史的にも国際色豊かな地で，懇親も含めた交流が持てたことは，参加者の今後の研究活動におけるネットワークづくりの一助となることを期待している．本国際会議を初めて日本国内で開催し，複数の参加者からも「大変良い国際会議だった」とのコメントを頂戴しており，このような有益かつ充実した会議となったことは実行委員会にとっても有意義だったといえる．

謝　辞

当国際会議を開催するにあたり，ご協力及びご支援いただいた各企業および各財団法人等に御礼を申し上げます．特に，国内での初めての国際会議開催にあたり助成を頂きました公益財団法人天田財団に改めて御礼を申し上げます．